

# 基地負担を問う

日米連続インタビュー

▶ 8

民主党の沖繩政策「沖繩ビジョン」の座長を務め、外務副大臣として基地問題に関わった。米軍普天飛行場問題に対する現状の認識は。

「沖繩ビジョン」は現行の沖繩振興計画を審議する中、2002年8月にまとめ、05年、08年とバージョンアップした。08年当時、普天問題が膠着状態にあり、『米軍再編を契機として、普天基地の移転についても、県外移転の道を引き続き模索すべきである。言うまでもなく、戦略環境の変化を踏まえて、国外移転を目指す』とした

「政権交代後、外務副大臣に就いたが、北東アジアの戦略環境の変化があり、日米交

## 武正公一氏

前外務副大臣



# 普天間 日米合意が基本

## 野党時代 安保情報乏しく

渉の現場に直面し、合意形成は困難を極めた。民主、社民、国民新党の与党を中心にした沖繩基地問題検討委員会の検討もあったが、鳩山政権は昨年5月28日の日米合意で決着した。普天問題の方向性を決めた日米合意をしっかりと

した鳩山政権が辺野古移設で合意した要因は。

「副大臣を辞めて半年しかたらず、現在進行形の問題で検証するのは早い。北東アジアの情勢の変化が指摘できる。野党時代は、外交安全保障の機微な情報に得ることが

いう書きぶりになった。マニフェストでは具体的に触れていない」

「沖繩側は「県内移設」を受け入れる状況ではない。普天問題の見通しは。

「沖繩側との協議は政務三役の役割だ。岡田克也幹事長

に受け止めるのか。  
「安全保障だけではなく、沖繩振興や鉄軌道などの要望を政府に伝えている」  
「普天問題では、仲井真弘多知事も「県外移設」を求めている。  
「この問題だけを取り上げているわけではない。いくつかの要請は新年度予算に反映された。安全保障は経済や文化、歴史的な背景を把握する必要がある。普天問題にはさまざまな声がある」

受け止め、臨んでいくべきと考える」

「最低でも県外」と表明

できなかつた。政権交代が常態化した現在、与野党で情報を共有することは必要だ」

「外交安全保障の情報を得ていけば、沖繩ビジョンの普天問題の方針は変わっていないのか。」

「その可能性はあったと思う。当時は膠着状態にあり、戦略関係の変化を踏まえてと

対の声を与党としてどのよう

が座長を務める党の沖繩協議会座長代理として、沖繩の声を真摯に聞くことに徹し、要望を政府に伝えたい。外務副大臣時代、沖繩のありのままの声を政府に伝える与党のルートが必ずしも機能していなかった」

「協議会で要望をまとめ、野党の立場で負担軽減に努める。野党時代に民主、社民、国民新党で日米地位協定改定案を提案した責任者の1人だ。改定案を取りまとめた」  
（聞き手＝東京支社・与那原良彦）